2026年11月27日

各　位

会社名　株式会社サイバーセキュリティクラウド
代表者名　代表取締役社長 兼 CEO　　小池敏弘
（コード番号：4493　東証グロース）
問合せ先　取締役 CFO　　倉田雅史
（TEL.03-6416-9996）

2026年12月期 第３四半期決算に関するQ&A掲載のお知らせ

当社は、2026年12月期 第３四半期決算に関するQ&Aを掲載いたしましたので、お知らせいたします。

【決算について】

通期業績予想を修正した理由を教えてください。

主な要因は、期初の組織体制変更に伴う営業活動の遅れと、当初想定していた価格改定の対象・時期の見直しにより、売上高が計画を下回る見込みとなったことです。利益面では、売上高の下振れに加え、本社オフィスの増床や、当社開発環境における情報漏えいのおそれへの対応に伴う計画外の費用を反映しています。

組織体制と価格改定に関する課題については、上期から改善に取り組んできました。第３四半期以降はその成果が表れ始めていますが、当社は売上高の約９割がストック型であり、新規受注や価格改定の効果が売上高に反映されるまでに時間を要するため、上期の遅れを当期中に補うことは難しいと判断しました。

なお、今回の修正は適時開示基準には該当しませんが、業績の見通しを適切にお伝えするため、11月13日に任意で開示したものです。

価格改定は第３四半期、第４四半期の売上高にどのように影響しますか。

第３四半期の売上高には、「Managed Rules」と「SIDfm」の価格改定が一部寄与しています。第４四半期には、これらに加えて「WafCharm」の価格改定が寄与する見込みです。

「Managed Rules」は、８月から全顧客の月額基本料金を５米ドル引き上げました。「SIDfm」は年間契約が中心であり、８月以降、契約更新を迎えた顧客から約２割の引き上げで順次価格を改定しています。今後は、新料金の適用対象の拡大に伴い、売上高への寄与が段階的に増加する見込みです。

「WafCharm」は、2023年５月までに契約した旧料金プランの顧客を対象に、10月に料金を約２割引き上げました。対象は既存顧客の約半数に相当し、第４四半期から四半期を通じて寄与します。

売上高への反映イメージは、決算説明資料のトピックスに掲載していますので、併せてご参照ください。

サイバー攻撃の増加に伴う問い合わせの増加は、業績にどのように表れますか。

不正アクセスによる情報漏えい事故の発生や政府による対策強化を背景に、問い合わせの増加から新規契約に早速つながっており、「攻撃遮断くん」では、10月の新規受注金額が月間過去最高となりました。また、10月の問い合わせから契約までの期間は中央値で数日となり、短期間で受注につながる動きが見られています。

これらの受注は、課金開始に伴って 11 月以降、段階的に売上高に反映される見込みです。ただし、当社は売上高の約９割がストック型であり、契約期間を通じて売上高が積み上がるため、当期業績への寄与は限定的と見込んでいます。

第３四半期の費用の増加と、業績予想の修正に反映した費用について教えてください。

第３四半期は、社内での AI 活用拡大に伴う AI サービス利用料の増加と、サーバー移行に伴う新旧環境の一時的な並行稼働により、通信費が増加しました。また、採用が進み、四半期ベースで過去最高の採用数となったことから、人件費も増加しています。

修正後の通期業績予想には、本社オフィスの増床に伴い第４四半期に発生を見込む費用や、情報漏えいのおそれへの対応費用など、計画外の費用を反映しています。

【情報漏えいのおそれについて】

本件による業績への影響を教えてください。

11 月 13 日に公表した修正後の通期業績予想には、フォレンジック調査の費用など、公表時点で合理的に見積もり可能な範囲で、本件による業績への影響を織り込んでいます。

今後、調査の進展等により、当期業績に重要な影響が生じると見込まれる場合には、速やかにお知らせいたします。

【今後の成長戦略について】

直近の事業環境の変化を受けて、今後中期経営計画に変更はありますか。

2026 年２月の計画公表以降、AI の進化に伴うサイバー攻撃の高度化や漏えい被害の多発など、当社を取り巻く事業環境は大きく変化しています。こうした変化や、自社のセキュリティ対策のさらなる強化が、今後の事業展開や必要な投資に与える影響を踏まえ、中期経営計画で定めた成長戦略を検証する必要があると認識しています。現時点で目標や方針の見直しを決定した事実はありませんが、今後、見直しを決定した場合には、速やかに開示いたします。

国によるサイバー対策の強化は、事業にどのように関係しますか。

相次ぐ情報漏えい被害を受け、関係省庁による注意喚起や対策強化の要請、政府によるサイバーセキュリティ緊急対策パッケージの策定など、国による取組みが進んでいます。

こうした動きは、企業が自社の対策を強化するだけでなく、取引先にも一定のセキュリティ水準を求める契機になると考えています。サプライチェーンにおける対策状況を評価する SCS 評価制度の整備も進められており、対策強化の動きは大企業から中小企業を含む取引先へと広がることが期待されます。

その結果、国内全体でセキュリティ投資の裾野が広がり、当社サービスへの中長期的な需要拡大につながると考えています。

サイバー攻撃が増加している現在の事業環境を、どのように捉えていますか。

AI の発展に伴う脆弱性の発見件数の増加や、Web サイトに対する不正アクセスの増加を背景に、企業における Web セキュリティ対策の重要性が一段と高まっていると認識しています。10 月以降、当社でも「攻撃遮断くん」への問い合わせや受注が増加しており、対策の必要性に対する認識の高まりが、具体的な導入につながっています。

今後もサイバー攻撃の高度化などを背景に、Web セキュリティ対策への需要は継続すると見込んでおり、当社の中長期的な成長を後押しする事業環境と捉えています。

AI 領域の進捗を教えてください。

AI 領域では、企業の AI 活用に伴うリスクを、評価・可視化から統制、運用・継続管理まで一貫して支える「Security for AI」のサービスラインアップの拡充を進めています。

2026 年６月の「AI MONBAN」、７月の「AI/LLM アプリケーション脆弱性診断サービス」に続き、８月に「AI ガバナンスアセスメントサービス」、９月に「AI セキュリティ改善・実装支援サービス」の提供を開始しました。AI セキュリティ領域は立ち上がりの段階であり、現時点の業績への寄与は限定的です。診断やアセスメントを入口に、AI 活用のルールづくりの支援や「AI MONBAN」の導入につなげ、中長期的な売上成長を目指してまいります。

以　上